

豊かなふるさとを支えます。安全で美味しいお肉、牛乳、卵を届けます。

ながさきの畜産2025

長崎県は日本の本土最西端に位置し、地形は平坦地に乏しく、多くの半島と離島から形成され、海岸線の延長は4,167キロメートルにおよび北海道に次ぐ長さとなっています。

江戸時代には出島（長崎市）にオランダ商館が置かれていましたが、そこでは牛などが飼育されていました。

このように、豊かな自然と畜産に長い歴史を持つ長崎県は、県内外へ、良質で安全な畜産物の供給基地となっています。



撮影場所：長崎県壱岐市

<長崎県の概要>

■人口／1,238,352人

（令和7年6月1日現在 長崎県推計人口）

■面積／4,131.21km²

（令和7年4月全国都道府県市区町村別面積調）

■農家数／28,282戸

（令和2年2月1日現在 2020年農林業センサス）

■家畜の飼養状況

畜種	飼養戸数	順位	飼養頭数	シェア	順位
乳用牛	104 戸	23位	5,360 頭	0.4%	26位
肉用牛	1,830 戸	8位	91,100 頭	3.5%	5位
豚	67 戸	15位	181,200 頭	2.1%	15位
採卵鶏	51 戸	11位	1,826 千羽	1.1%	26位
ブロイラー	48 戸	8位	3,297 千羽	2.3%	9位

注)1 飼養戸数・飼養頭数は令和7年2月1日現在「第1報」(畜産統計)

(豚・採卵鶏・ブロイラーについては令和6年2月1日現在)

2 シェア及び順位は全国値に対するもの

長崎県農業の中の畜産

本県の畜産は農業産出額の約4割を占める重要な作目
肉用牛は20年連続第1位

本県の畜産は、農業産出額1,590億円（令和5年）のうち、627億円、約4割を占める地域農業を支える基幹作目であり、飼料・食肉加工・流通分野など、関連産業の裾野が広く、地域の雇用の確保にも貢献しています。

■ 農業産出額作目別順位（令和5年）

1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	県計
肉用牛	豚	いちご	ばれいしょ	みかん	米	鶏卵	ブロイラー	生乳	トマト	億円
250	142	127	115	105	101	92	89	48	44	1,590

第3期ながさき農林業・農山村活性化計画

「チャレンジ畜産600億の推進」

本計画は、10年後の本県の農林業・農山村の目指す姿を描きながら、今後5年間の施策の方向性を示すものです。（計画期間：令和3年度から令和7年度）

畜産については、「チャレンジ畜産600億の推進」を行動計画に掲げ、令和7年度の畜産産出額600億円の達成を目指し、次の3つの振興方策に沿って各種施策を展開します。

■ 振興方策

- 1. 畜産クラスター計画等に基づく次世代に継承できる生産基盤の強化
- 2. ICTを活用したスマート畜産等によるコスト縮減と生産性向上
- 3. 畜産物の高品質化によるブランド力強化と販売の促進

■ 第3期活性化計画KPI

項 目	基準値 （平成30年度）	目標値 （令和7年度）
繁殖牛の分娩間隔	395 日	380 日
肥育牛（肉専用種去勢牛）の枝肉重量	504 kg	530 kg
経産牛1頭あたり年間生乳生産量	8,324 kg	8,800 kg
母豚1頭当たり年間肉豚出荷頭数	21.5 頭	25.0 頭



生体モニタリングシステム



肉 用 牛

肉用牛は農業産出額で第1位の作目であり、離島半島や中山間地域などが多い本県において、地域経済を支える重要な産業になっています。

長崎和牛は、第10回全国和牛能力共進会（H24）において内閣総理大臣賞、第11回大会（H29）では交雑脂肪の形状賞を受賞するなど、品質の良さが高く評価されています。

主要な振興方策

- 畜産クラスター計画等に基づく施設整備や高品質な家畜導入による産地の維持・拡大
- 産地と一体となった新規就農者の支援や経営継承による新たな担い手の育成
- キャトルステーションやヘルパー組織等の労力支援体制の構築
- ICT等スマート機器の活用による分娩間隔の短縮や事故率の低減、放牧の推進などによるコスト縮減と生産性向上
- 長崎和牛の改良促進と肥育技術の向上による高品質化・ブランド力の強化



畜産クラスター構築事業による牛舎整備



傾斜地を活用した放牧

農家戸数	飼養頭数	一戸当たり 飼養頭数	出荷頭数	
			子牛 (県内市場)	肉牛 (和牛)
1,830戸 (92.4%)	91,100頭 (97.4%)	49.8頭 (105.5%)	19,771頭 (93.3%)	16,486頭 (102.8%)
	うち繁殖雌牛 29,500頭 (95.2%)	全国 76.3頭 (104.3%)		

注) 1 令和7年2月1日現在「第1報」(畜産統計)

2 出荷頭数は令和6年度(畜産課調査)

3 (%)は対前年比

■子牛価格(黒毛和種)の動向

年 度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
取引頭数	18,657頭	18,656頭	19,225頭	19,417頭	20,627頭	21,201頭	19,771頭
平均価格	773,004円	741,573円	698,545円	735,976円	616,022円	517,568円	520,936円

●主産地

繁殖: 県北、杵岐、島原半島、五島、対馬など

肥育: 長崎・西彼、島原半島、県央など

●肉牛の出荷先

県内出荷(と畜)が56.7%
県外出荷は、主に福岡、大阪、兵庫、鹿児島、熊本など

●子牛の取引先

県内取引が39.1%
県外取引は、主に佐賀、鹿児島、福岡、兵庫など

「長崎和牛」を支える超エリート種雄牛

さちお 「幸男」号

平成29年7月 梶崎市郷ノ浦町生まれ
父:勝乃幸 祖父:金幸
【産肉能力検定(現場後代法)の成績】
(去勢牛のみ) 枝肉重量 556.5kg
ロース芯面積 81.5cm²
BMS. No. 11.0



「幸男」号
産子の枝肉

父「勝乃幸」の力を受け継いだ 気高系種雄牛

ひめはるひさ 「姫晴久」号

令和元年11月 松浦市志佐町生まれ
父:福之姫 祖父:平茂晴
【産肉能力検定(現場後代法)の成績】
(去勢牛のみ) 枝肉重量 569.0kg
ロース芯面積 77.1cm²
BMS. No. 11.5



「姫晴久」号
産子の枝肉

本県歴代1位の現場後代検定成績

かつのさち 「勝乃幸」号

平成22年11月 平戸市大島村生まれ
父:勝乃勝 祖父:金幸
【産肉能力検定(現場後代法)の成績】
(去勢牛のみ) 枝肉重量 509.0kg
ロース芯面積 69.0cm²
BMS. No. 10.3



べんけい 「弁慶3」号

平成23年12月 梶崎市郷ノ浦町生まれ
父:北乃大福 祖父:牛若丸
【産肉能力検定(現場後代法)の成績】
(去勢牛のみ) 枝肉重量 542.2kg
ロース芯面積 71.1cm²
BMS. No. 8.8



はるたろう 「晴太郎」号

平成27年12月 佐世保市宇久町生まれ
父:平茂晴 祖父:百合茂
【産肉能力検定(現場後代法)の成績】
(去勢牛のみ) 枝肉重量 514.6kg
ロース芯面積 65.2cm²
BMS. No. 9.3



しんのすけ 「真乃介」号

平成28年1月 松浦市志佐町生まれ
父:美津照重 祖父:安福久
【産肉能力検定(現場後代法)の成績】
(去勢牛のみ) 枝肉重量 492.4kg
ロース芯面積 72.4cm²
BMS. No. 10.0



やまわかば 「山若葉」号

平成30年5月 梶崎市郷ノ浦町生まれ
父:百合幸 祖父:平茂晴
【産肉能力検定(現場後代法)の成績】
(去勢牛のみ) 枝肉重量 533.2kg
ロース芯面積 76.6cm²
BMS. No. 9.7



しょうた 「正太」号

平成30年8月 梶崎市石田町生まれ
父:勝乃幸 祖父:百合茂
【産肉能力検定(現場後代法)の成績】
(去勢牛のみ) 枝肉重量 473.8kg
ロース芯面積 68.6cm²
BMS. No. 11.3





らくのう 酪農

長崎県の酪農の歴史は古く、今から約200年前に出島で乳牛が飼育されたことにはじまり、明治25年の牛馬籍台帳によると、乳牛が747頭飼育されていました。

生産される生乳の88.0%は、飲用牛乳等として供給され、特に学校給食では児童・生徒の体位向上に貢献しています。

主要な振興方策

- 空き牛房の再活用や育成預託施設を活用した自家産後継牛の確保・増頭
- 長命連産性に優れた性判別精液の活用促進
- 高耐暑性種雄牛精液の活用促進
- ICTの積極的な活用による生産性の向上
- 酪農コンサルを活用したバーンミーティングによる飼養管理技術の向上
- 牛乳・酪農への理解醸成と高付加価値化
- 家畜排せつ物の利用促進と飼養衛生管理基準の遵守徹底



自動装置やICT機器の導入



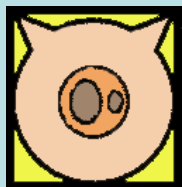
「父の日に牛乳(ちち)を贈ろう！」キャンペーンPR

農家戸数	飼養頭数	一戸当たり 飼養頭数	生乳生産量
104戸 (94.5%)	5,360頭 (95.4%)	51.5頭 (100.9%)	39,063トン (98.5%)
	うち経産牛 4,440頭 (96.3%)	全国 114.4頭 (103.7%)	

- 主産地
島原半島、県央、県北

- 生乳の出荷先
生産された生乳のうち県内
処理は28.6%、県外処理は
主として福岡

- (注)1 令和7年2月1日現在「第1報」(畜産統計)
2 生乳生産量は令和6年次(牛乳乳製品統計)
3 (%)は対前年比



よう と ん 養 豚

本県の令和5年養豚産出額は142億円、品目別順位で2位と上位に位置し、重要な基幹品目となっています。

配合飼料価格をはじめとした生産資材の高騰、豚熱等の伝染病への感染リスクの増加など養豚を取り巻く情勢は大変厳しいですが、「第3期ながさき養豚振興計画」に基づき、次世代に継承できる収益性の高い経営体の確立に向け、取り組んでいます。

主要な振興方策

- 多産系母豚の導入推進やベンチマーキングシステム活用による生産性向上
- 遊休施設のマッチングによる円滑な経営継承・担い手確保の推進
- ICTの活用による飼養管理技術の向上・省力化の推進
- エコフィードや飼料用米の利用推進
- 飼養衛生管理基準の遵守・徹底及び防疫体制の強化による豚熱などの家畜伝染病の発生や蔓延を防止
- 環境と調和した養豚経営の確立と排せつ物処理施設の高度化



畜産クラスター構築事業を活用した
豚舎整備



多産系母豚



県庁レストランでの
県産豚肉メニューのPR提供

養豚

農家戸数	飼養頭数	一戸当たり 飼養頭数	肉 豚 出荷頭数
67戸 (84.8%)	181,200頭 (92.5%) うち子取雌豚 15,500頭	2,705頭 (109.1%)	325,318頭 (95.2%)

(注)1 令和6年2月1日現在「確報」(畜産統計)

2 肉豚出荷頭数は令和6年度推計(県生活衛生課調べ)

3 (%)は対前年比

- 主産地
島原半島、西彼半島、県央

- 豚肉の出荷先
県内出荷は91.4%
県外の出荷先は、宮崎、佐賀



ようけい 養 鶏

新鮮な鶏卵や鶏肉の安定供給を図り、消費者の安全・安心志向に応えることが重要です。
県内の養鶏農家は生産コストの縮減を図るとともに衛生管理の徹底を図り、安全で品質の高い鶏卵・鶏肉の生産に取り組んでいます。

主要な振興方策

- 家きんの重要疾病発生防止
- 特色ある鶏卵・鶏肉の生産と輸出拡大
- 環境に配慮した畜産環境保全の推進
- 畜産クラスターによる収益力向上

(鶏卵GPセンター)



(鶏舎)



畜産クラスター構築事業を活用した
施設整備



対馬地鶏 原種



長崎地鶏フェアの開催による
消費拡大の取組

【採卵鶏】

農家戸数	飼養羽数	一戸当たり 成鶏めす 飼養羽数	鶏 卵 生産量
51戸 (100.0%)	1,826千羽 (94.0%) うち6ヶ月以上 1,548千羽	30千羽 (96.1%)	27,291トン (95.9%)

- 注) 1 令和6年2月1日現在「確報」(畜産統計)
2 鶏卵生産量は令和6年次「確報」(鶏卵流通統計)
3 (%)は対前年比

●主産地

採卵鶏: 島原半島、県央

【ブロイラー】

農家戸数	飼養羽数	一戸当たり 飼養羽数	出 荷 羽 数
48戸 (96.0%)	3,297千羽 (109.0%)	69千羽 (113.6%)	15,512千羽 (112.1%)

- 注) 1 令和6年2月1日現在「確報」(畜産統計)
2 出荷羽数は令和5年2月2日～令和6年2月1日
までの1年間で出荷された合計(畜産統計)
3 (%)は対前年度比

ブロイラー: 島原半島、県央

鳥インフルエンザ等家畜伝染病への対応

発生予防対策と万一の発生に備えた初動防疫体制の強化

家畜伝染病の発生予防のため、畜産農家へ家畜保健衛生所の獣医師が定期的に立ち入りし、飼養衛生管理基準の遵守指導を実施しています。また、万一の発生時に被害を最小限に抑えるため、畜産農家へ家畜の異状の早期発見・早期通報を呼びかけるとともに、発生農場での殺処分や車両消毒等、まん延防止対策が迅速かつ的確に行なえるよう、防疫演習を実施することにより防疫体制の強化に努めています。



捕鳥作業の演習



後方支援センターの運営演習

長崎県の主要な畜産関係機関

